

第 1 問 答案用紙< 1 > (会 計 学)

問題 1																																												
問 1	229,985,250	円																																										
問 2	度外視法により処理され、完成品と月末仕掛品の両者に負担されることとなります。																																											
問 3	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">減損量</td> <td style="width: 40%; text-align: center;">13,920</td> <td style="width: 30%; text-align: center;">kg</td> </tr> <tr> <td>減損費</td> <td style="text-align: center;">26,026,050</td> <td style="text-align: center;">円</td> </tr> </table>		減損量	13,920	kg	減損費	26,026,050	円																																				
減損量	13,920	kg																																										
減損費	26,026,050	円																																										
問 4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">①</td> <td style="width: 90%;">原価低減</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>原価統制</td> </tr> </table>		①	原価低減	②	原価統制																																						
①	原価低減																																											
②	原価統制																																											
問 5	販売価格を下げるなど見直しを随時行う必要があり、一定の利益を確保するためには原価改善を行わなければならない																																											
問 6	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 5%;">ア</td><td style="width: 35%; text-align: center;">1,096,000</td><td style="width: 20%; text-align: center;">円(有)</td></tr> <tr><td>イ</td><td style="text-align: center;">4,825,000</td><td style="text-align: center;">円(有)</td></tr> <tr><td>ウ</td><td style="text-align: center;">1,047,600</td><td style="text-align: center;">円(有)</td></tr> <tr><td>エ</td><td style="text-align: center;">1,296,000</td><td style="text-align: center;">円(有)</td></tr> <tr><td>オ</td><td style="text-align: center;">5,320,000</td><td style="text-align: center;">円(有)</td></tr> <tr><td>カ</td><td style="text-align: center;">115,200</td><td style="text-align: center;">円(不)</td></tr> <tr><td>キ</td><td style="text-align: center;">50,999,000</td><td style="text-align: center;">円</td></tr> <tr><td>ク</td><td style="text-align: center;">53,878,000</td><td style="text-align: center;">円</td></tr> <tr><td>ケ</td><td style="text-align: center;">597,600</td><td style="text-align: center;">円</td></tr> <tr><td>コ</td><td style="text-align: center;">不要</td><td style="text-align: center;">円</td></tr> <tr><td>サ</td><td style="text-align: center;">2,771,200</td><td style="text-align: center;">円</td></tr> <tr><td>シ</td><td style="text-align: center;">不要</td><td style="text-align: center;">円</td></tr> <tr><td>ス</td><td style="text-align: center;">不要</td><td style="text-align: center;">円</td></tr> <tr><td>セ</td><td style="text-align: center;">489,800</td><td style="text-align: center;">円</td></tr> </table>	ア	1,096,000	円(有)	イ	4,825,000	円(有)	ウ	1,047,600	円(有)	エ	1,296,000	円(有)	オ	5,320,000	円(有)	カ	115,200	円(不)	キ	50,999,000	円	ク	53,878,000	円	ケ	597,600	円	コ	不要	円	サ	2,771,200	円	シ	不要	円	ス	不要	円	セ	489,800	円	<p>()には有利差異であれば有、不利差異であれば不と書くこと。</p> <p>(ケ)と(コ)</p> <p>(サ)と(シ)</p> <p>(ス)と(セ)は、 いずれかに不要と書くこと。</p>
ア	1,096,000	円(有)																																										
イ	4,825,000	円(有)																																										
ウ	1,047,600	円(有)																																										
エ	1,296,000	円(有)																																										
オ	5,320,000	円(有)																																										
カ	115,200	円(不)																																										
キ	50,999,000	円																																										
ク	53,878,000	円																																										
ケ	597,600	円																																										
コ	不要	円																																										
サ	2,771,200	円																																										
シ	不要	円																																										
ス	不要	円																																										
セ	489,800	円																																										

第1問 答案用紙<2> (会 計 学)

問題2

問1

	婦 人 衣 料	紳 士 衣 料	ベビー・子供服	寝具その他
営業損益(円)	▲1,364,500	▲475,000	2,196,300	781,500

問2

	婦 人 衣 料	紳 士 衣 料	ベビー・子供服	寝具その他
営業損益(円)	▲4,345,800	1,039,000	2,524,000	1,921,100

問3

ア	ベビー・子供服	イ	寝具その他
ウ	紳士衣料	エ	婦人衣料

問4

販管費の配賦計算を、活動別に行うことで、より実態に即した配賦を行うことができる。
それにより、正確な製品原価の計算を行うことができるとともに、製品の収益性を明らかに
して競争戦略に役立てることができる。

問5

	婦 人 衣 料	紳 士 衣 料	ベビー・子供服	寝具その他
売上高販管費率(%)	16.0	11.6	13.2	10.4

問6

	婦 人 衣 料	紳 士 衣 料	ベビー・子供服	寝具その他
売上高販管費率(%)	12.4	13.1	13.1	13.8

問7

ア	婦人衣料
イ	寝具その他
ウ	活動基準原価計算

第 2 問 答案用紙< 1 >
(会 計 学)

問題 1

問 1

ア	イ	ウ	エ	オ
34,000	45,000	52,000	0	21,600,000

問 2

設問 1	<p>共通の制約条件である直接作業時間あたりの貢献利益は、製品 X が 8,500 円/時間、製品 Y が 7,500 円/時間、製品 Z が 6,500 円/時間となる。したがって、利益を最大化するため、直接作業時間あたりの貢献利益が最も高い製品 X を優先的に生産・販売することを提案したと考えられる。</p>
設問 2	<p>共通の制約条件である直接作業時間あたりの販売価格は、製品 X が 25,000 円/時間、製品 Y が 約 28,333 円/時間、製品 Z が 23,750 円/時間となる。したがって、売上高の増加を図るために製品 Y を販売しつつ、製品戦略などを加味し製品 X・Z も併せて生産・販売することを提案したと考えられる。</p>
設問 3	<p>製品 Y を 300kg、製品 Z を 125kg 生産・販売することにより 20,000,000 円の貢献利益を得られるが、その分製品 X の販売をしないことで失われる貢献利益 23,800,000 円が機会原価となり、両者の提案に基づく貢献利益に 3,800,000 円の差が生じた。</p>

問 3

計算式	$(p - 125,000 \text{円}) \div (4 \text{時間} + 2 \text{時間}) \geq 34,000 \text{円} \div 4 \text{時間}$
説明	<p>共通の制約条件である直接作業時間あたりの貢献利益が、製品 Y が製品 X を上回るように p を求めている。</p>

問 4

	X	Y	Z
最適セールズ・ミックス	1,300 kg	160 kg	0 kg

説明

<p>超過勤務による生産能力拡大を行わない場合の最適セールズ・ミックスは製品 X のみを 1,200kg 生産・販売することであり、その場合の営業利益は 28,800,000 円となる。超過勤務による生産能力拡大を行った場合の最適セールズ・ミックスに基づいた営業利益は 34,010,000 円となり、行わない場合に比して 5,210,000 円増加するため、超過勤務による生産能力拡大を行うべきである。</p>
--

第 2 問 答案用紙< 2 >
(会 計 学)

問題 2

問 1 5月の経常利益 千円

6月の経常利益 千円

問 2 5月末の現金有高または不足額 千円

6月末の現金有高または不足額 千円

問 3

損益予算は発生主義に基づく利益情報として作成されるが、利益がプラスであっても、資金収支はマイナスとなることもある。つまり損益予算による情報では企業の資金繰りの状況は明らかにならない。したがって、適切な資金管理を行うためには、損益予算に加えて資金予算の作成が必要となる。

問 4

設問 1

店長の賞与は、売上高が予算を超えると大幅アップする制度を採用しているため、店長には売上高予算を低く設定しておきたい動機がある。そのような中、店長が設定した売上高予算をそのまま用いており、売上高予算を低く設定する予算スラックが生じている状況にある。

設問 2

①売上高だけでなく、利益や資金収支、在庫の保有水準など他の項目も業績評価指標として用いる。

②各店長の意見を参考にしつつも、A製品とB製品の需要動向を考慮するなど販売部長によるトップダウンの要素を組み入れて売上高予算を策定する。